

(別紙4(2))

事業所名 　　ゆうゆうホーム

目標達成計画

作成日： 平成 30年 2月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	比較的自分の思いや意向を聞きとれる利用者が多いとのことで、実際は本人に寄り添うケアが行われているとしても、ケアプランの書面上読みとれない。家族も安心できるよう、明確に本人の意向が反映されたケアプランに期待したい。	それぞれ本人に合った、自立支援に向けたケアプランの作成を行う。本人の意向と家族の意向をしっかりと聞きとり、ケアプランに反映して行きたい。	本人や家族の意向は把握してケアを行っていたが、ケアプランにはきちんと記載されていない部分があった。現在のケアプラン様式でなく、それに合った様式を使用し、本人、家族から聞きとった意向を記載するとともに、それが反映されたケアプランを作成したい。	6ヶ月
2	2	近隣住民の事業所への関心が薄い。今年は地域の行事には殆ど参加しておらず、地域との関わりを大切に、事業所の存在をアピールするためにも、積極的な行事参加に努められたい。	区長場との連携を密にして、行事等を早めに把握し、参加行事には職員数を確保して、対応したい。	今年、越地区連合総会に出席し、地域の報告や予定を把握した。その上で、参加可能な行事には参加したい。職員数にも限りがあり参加出来ないこともあったが、予定を早めに知ること、職員数を確保して対応したい。利用者の体調も整え、参加者数を増やしたい。	3ヶ月
3	54	利用者自身の希望する物の持ち込み等、居心地よい居室を作るための工夫が必要である。入所前に事業所職員が自宅訪問を行い、家族に対してもその必要性を説明するなどして、取り組まれたい。	居室内の家具、装飾品として、家族の意向だけでなく、本人の意向の物も持ってきてもらう。本人の使い慣れた、自分の物という認識ができる物を身近において生活することが、認知症ケアには良いことを家族にも改めて説明したい。	現在入所中の入所者家族には、今回の外部評価での意見を説明し、改めて本人の使ってきたもの、好きだったものなどを持ってきてもらえるよう依頼した。家族がおらず、家もないという利用者には、少しずつ飾りものを作ったり、増やしたりして、本人と一緒に自分らしい居室を整えていきたい。今後の入所者については、入所前に本人の好きな物、使用していた物などが身近にあることの重要性を説明し、出来るだけ持ってきてもらうように取り組みたい。	6ヶ月